

科目名	公衆衛生特論	担当教員	細田満和子
科目属性	関連科目	単位数	2単位(面接0.25単位)
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>本科目では、公衆衛生学の基本となる知識や考え方を習得した上で、健康を守る仕組みや社会的制度を学修します。健康を守るためには、単に医療機関を充実させればよいわけではなく、個々人の生活の在り方、地域社会の社会的関係性、国家規模での制度など、様々な側面からの支えが必要です。このことを、受講者に皆さんに、理解し、考えてもらいます。健康の社会的決定論、グローバルヘルス、チームアプローチといった概念を理解することによって、現場の医療ケア実践や地域包括ケアの取り組みが、いかなる理論的根拠に立脚しているのか、あるいは理論的根拠に乏しいのかを自ら判断して、現場において役立てることのできる能力を見に付けてもらいます。</p> <p>(1) 日本人の健康状態の概略、日本の健康を守るための制度（医療保険や介護保険、病院、予防接種など）を知る。</p> <p>(2) 公衆衛生学の基本的な考え方、健康の社会的決定論について理解する。</p> <p>(3) 「健康はみんなで守る」というパブリックヘルスの概念と実践を理解する。</p> <p>(4) グローバルヘルスとして世界の健康を守るための制度や取り組みを日本と比較しながら理解する。なお、本科目は「社会倫理学」と合わせて履修することを強くお勧めします。「社会倫理学」では、現代社会を理解する為の枠組みとして、公共性をめぐる議論、市民社会論、生命倫理学といったものを、社会倫理として学修していただきます。その際、主に医療福祉の現場で生起している諸問題をケースとして読み解いてゆきますので、ぜひ履修してください。</p>			
<p>【授業計画】 授業計画は下記のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは何か（シラバスの第1回～第3回）公衆衛生学とは何かという基本的な考え方を学びます。その際に、特に健康は社会的決定論という考え方に着目してみてください。テキストや参考書を基に、日本人の健康と病気の概要について、そして世界の健康と病気の概要について学修してください。 2. 健康を守る社会の仕組み（シラバスの第4回～第7回）健康を守る社会の仕組みとして、健康と保険の制度、医療制度（医療施設、医療従事者）、福祉制度、予防医学とセルフケアを学びます。 3. 健康被害とその対策（シラバスの第8回目～第12回目）健康被害とその対策として、人は環境からどのように影響を受けるか、こころの健康・健康被害・疾患、予防接種、災害・気候変動と健康被害、食品・嗜好品と健康被害（喫煙・飲酒・栄養・肥満）といった観点から概観してみます。 4. よりよく生きるために（シラバスの第13回目から第15回目）よりよく生きるために私たちは何ができるのかといことを考えてもらいます。ライフコース、ワークライフバランス、当事者主権の意味、パブリックヘルス、ヘルス・ガバナンスといった観点から、このテーマを考えてみます。 			

【評価方法】

スクーリング 20%、レポート 40%、試験 40%の割合で総合して行います。また、受講の年度中に星槎大学紀要や、その他の学術論文誌に掲載が決まった場合、それも評価に加味します。

【教科書】

細田満和子. (2012). パブリックヘルス 市民が変える医療社会, 明石書店. ISBN:978-4750335230

細田満和子. (2013). 知って得する予防接種の話, 東洋経済新報社(電子書籍/オンデマンド出版). ISBN: 9784492044957

細田満和子. (2015). グローカル共生社会へのヒント—いのちと健康を守る世界の現場から, 星槎大学出版会. ISBN:978477408001 C1336

【参考図書】

イチロー・カワチ. (2004). 不平等が健康を損なう, 日本評論社. ISBN: 9784535982376

近藤克則. (2005). 健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか, 医学書院. ISBN: 9784260001434

細田満和子. (2013). 「チーム医療」とは何か, 日本看護協会出版会. ISBN: 9784818016583